



子どもたちにこう言います  
「いずれ自分の故郷を  
ここに<sup>ふるさと</sup>つくれよ。」ってね

としはる  
**宮岡利治さん**  
(狭山市ぶどう組合組合長)



HITO

「ぶどうは果実の中でも、実が熟すまでに日数がかかるんです。だから本場に手問ひまかけてゆっくり大切に育てています。」作業の手を止め、ぶどう棚の下でその話するのは宮岡利治さん。毎年8月末に、社会福祉協議会主催の事業である障害者の皆さんによるぶどう狩りが行われる観光ぶどう園のご主人です。

「ぶどう作りは家業として一生懸命やっているけど、私にはその他にも、ずっと見守ってきたものがあります。それは、地元の子どもたち。私は水栄太鼓という小・中学生の和太鼓のグループの保護者役をやっているんです。もう10年以上になるかな。初代の子どもたちがすでに大学生になっっているんだけど、今でも夏祭のときなんかには太鼓の音を聞きつけて、ひよっこ顔を見せてくれた

「狭山市のぶどうの旬は、8月中旬から9月上旬くらいです。ぶどう狩りもお楽しみいただけますので、ぜひ、ご家族やお友だちと市内の観光ぶどう園を訪れてみてください。」と宮岡さん。

ぶどう園に関するお問い合わせ  
農政課へ ☎953 - 1111内線2531

りするんですよ。」とうれしそうです。

「毎週土曜日の夜、練習しているんですが、みんな試験期間中でも休まないんです。子ども同士で張り合っているみたいで、『置いて行かれる。』って思うのかな。不思議なことに、誰も教えたわけじゃないのに、きちんと大人にも挨拶をするし、大きい子が小さい子を面倒見たりして、連学年の子とも同士のつきあいもしっかり残っています。きつと、今リターナーの子たちが小さいときに、上のもんがやってたことを見てきたんでしょね。」そして、こんなことも、「私は子どもたちが大きくなるとどこかで太鼓の音を聞いたとき、『ああなつかしい故郷の音だ。』って思い出してくれたらうれしいんです。いつも子どもたちに『お前たち、いずれここに故郷をつくるんだよ。』って言っています。みんな本当にかわいくて、どの子ども我が子みたいです。私は、子どもといつのはぶどうのように、手も目もかけて、ゆっくり丁寧に育てていかないと、本当に子どもらしい、人間らしい人物にはならないと思っているんです。」

宮岡さんが長年力を入れている、おいしいぶどう作りと、地域で子どもらしい子どもを育てる活動は共通することが多いようです。そして活動という言葉が大げさに感じるほど、その口調は本当に自然で、生まれ育った故郷を大切にしている気持ちにあふれていました。

## 狭山の生態系

62

### クロツグミ (スズメ目ヒタキ科)

全長約21cm。雄は上面と胸が黒く、腹は白色で黒色の三角斑があり、くちばしは黄色で足はだいたい色です。雌は上面が茶褐色で、脇と下雨覆したあまわらはだいたい色です。日本と中国の一部で繁殖し、中国南部・ベトナムなどで越冬します。

日本では主として夏鳥で、低い山や平地の林で繁殖します。高い木の枝にとまり、美しい大きな声で「キョロキョロキョロ」「キョロ」「キヤラキヤラツリ」などと、変化のあるさえずりをします。市内では、5月の初旬ごろに、稲荷山公園や智光山公園でその特徴あるさえずりを聞くことができます。



撮影：県生態系保護協会狭山支部  
矢内昭夫さん(水野)